

---

# ポケットモンスターイナズマ

sutadast

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ポケットモンスターイナズマ

### 【Nコード】

N09810

### 【作者名】

sutadast

### 【あらすじ】

ポケモンの二次創作です

カミツレがメインヒロインです

初投稿なんですけど、宜しくお願いします

## 帰還の時

「絶対、カミツレを守ってみせる」

「昔の夢だな・・・」

「久しぶりに帰ってきたから、そんな夢も見たんだろうな」

カミツレ

俺の幼馴染で、少し天然だけど  
いまじゃ、ライモンシティのジムリーダーでモデルもやっている  
昔とは大違いだ

町を離れて10年もたったんだから

俺は理想を求めている

そのために俺は、ライモンシティに帰るんだ

全てのジムを制覇して俺は・・・

そして、チャンピオンを超える

「行こう、ゼクロム」

理想のために・・・

## 帰還の時（後書き）

オリキャラ説明は面倒なので  
ここではします

主人公の名前はシュウ

何かどこにでも居そうですねw

年齢は19です

オリジナル設定だけどカミツレは18です

カミツレは1月6日と言うオリジナル設定で

シュウはこの作品が投稿された日10月2日が誕生日です

以上でキャラクター説明を終わりにします

## 第一話

「・・・私の勝ちね」

「負けちゃったなー」

「・・・頑張りなさい」

「はい／＼」

今日も挑戦者が来た

私に刺激を与えることなく敗れていくトレーナーばかりで、楽しくなかつた

そんな私を支えているものは・・・

「・・・シュウ」

シュウだった

私はシュウが帰ってくるまで頑張り続ける

翌日・・・

「カミツレさん」

「・・・なんですか？」

「挑戦者が来ました」

いつもの通りだった

その挑戦者を見るまでは

「久しぶりだな、カミツレ」

その声、その姿、間違いはない

「シュウ・・・なの？」

「へっ？」

地元の方が困っているみたいだった

「・・・もういいですよ」

「あ、ああそうですか、挑戦者さん頑張ってください」  
そういつてジムを出て行った

そうして私はシュウと二人きりになっていた

「シュウ、久振りね／＼」

私は、緊張していた

「その前に、ジム戦をしてくれないか？」

ジム戦と言う言葉に私は少し驚いた

でも、シュウが望むなら

「．．．いいわよ」

t o b e c o n t i n u e d

## 第一話（後書き）

感想や指摘があればお構いなくどうぞ

## 第二話

「・・・1対1のバトルでいいかしら？」

「それでいい」

「・・・出てきて、ゼブライカ」

カミツレのポケモンか、なかなか育てられているようだ

「いけ、ゼクロム」

「・・・これは伝説のポケモン？」

「・・・それでも負けない」

ゼクロムを目にしても、戦うんだな

ゼブライカもやる気は十分だな、なら全力で相手をするだけだ

「・・・でんこうせっか」

ゼクロムは空を飛びかわした

「今度はこっちの番だな、りゅうのはげし」

「・・・ゼブライカ避けて」

ゼブライカはりゅうのはどうをつまくかわした

「なかなかやるな」

「・・・シユウこそ」

「見せてやれ、ゼクロム」

「クロスサンダー」

大きな雷がゼブライカを襲う

ゼブライカはたった一撃で倒れてしまった

「・・・おつかれさま」

「強くなったな、カミツレ」

「・・・ありがとう／＼」

「・・・あとはバッジ」

「ああ、そうだな」

シユウはボルトバッジを手に入れた

t o b e c o n t i n u e d

### 第三話（前書き）

今日、PVを確認したら500を超えていました  
ありがとうございます

これからも宜しく願います

## 第三話

「・・・もう行くの?」

「そつだな、早く全ジムを制覇したいからな」

「・・・帰ってきたばかりだからその、私の家にノ」

「?」

分かりにくいけど、多分一日泊まれてことなんだろうな

「分かったよ、今日は泊まっていくな」

「・・・うんノ」

昔はもうちょっとはつきりしてたけどな

カミツレの家

「お邪魔します」

カミツレの家には誰もいなかった

「カミツレは一人暮らしなんだな」

「・・・うん」

部屋は可愛らしい部屋だった

「・・・シュウはどんな旅をしたの？」

「そつだな・・・」

何から話そうかを考える

考える

考える

考え・・・あ！

「ゼクロムとの出会いを話そうか」

「・・・うん」

「ライモンシティから出て行くときに、古代の城から行くことと決めてたんだ」

「古代の城で黒い石を拾ったんだ」

「・・・うん」

「キレイだからもって帰ったんだ」

「・・・シユウはキレイ好きだからね」

「そうなんだ、あの石はキレイだった」

「旅に出て、3つのバッジを手に入れたのはいいんだけど」

「・・・？」

「何のために集めていたんだか、よく分かんなくなつて」

「そんな時、黒い石からゼクロムが出て来たんだ」

「ゼクロムは、「お前の理想とはなんだ」と聞いてきた気がしたんだ」

「俺は、その理想を求めるための理想だ」とつい答えたんだ」

「・・・それって」

カミツレに笑われた

「笑うなよ」

「・・・ごめんなさい」

それでも苦笑いはされていた

「ゼクロムにも笑われた気がしたんだ」

「そこからゼクロムと戦って認めさせたんだ」

「それからゼクロムは俺と共に旅をしてるんだ」

「・・・それって最近の話だよね」

「あ・・・そうだった」

「・・・ふふふ」

また笑われた

「・・・でも、やっぱりシュウはシュウだね」

「そうか？」

「・・・うん」

「明日のこともあるから寝ようぜ」

「・・・うん／＼」

「じゃあな」

「・・・まっつてシュウ」

「なんだ、カミツレ？」

「・・・私も行く」

「え？今、何って？」

「・・・私も一緒に行く、シュウと旅に行きたいの」

「でもジムは？」

「・・・私の次にライモンでポケモン強い人に頼んでるもん」

「そうか・・・ならいいや」

「行こうぜ」

「んっ・・・」

こうしてシュウとカミツレのたびは始まるのだった

t o b e c o n t i n u e d

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0981o/>

---

ポケットモンスターイナズマ

2010年10月9日00時28分発行